

No. 505【2022年5月20日配信】

学生時代から才能を発揮した根市良三 その1 (担当:村上真美)

こんにちは。歴史資料室の村上真美です。  
メールマガジンのご愛読ありがとうございます♪

先日、高校生を主役にしたCMを見て、すごく感動しました。苦境にあったとしても、自分の中にある才能を信じて時代と共に進んでいくという強いメッセージ性を感じ、大人も勇気をもらえる素敵なCMでした。



吉川英治『神州天馬俠』  
第2巻(日本雄辯會講談社  
1927年 国立国会図書館  
デジタルコレクション)

今回は、学生時代から才能を発揮した根市良三<sup>ねいちりょうぞう</sup>(1914-47)についてご紹介させていただきます。

根市良三は青森市安方町の裕福な家庭に生まれます。しかし幼少の頃、小児麻痺にかかり、足が不自由となってしまいます。そのことを不憫に思った父母は、良三が欲しがったものは何でも与えてきました。

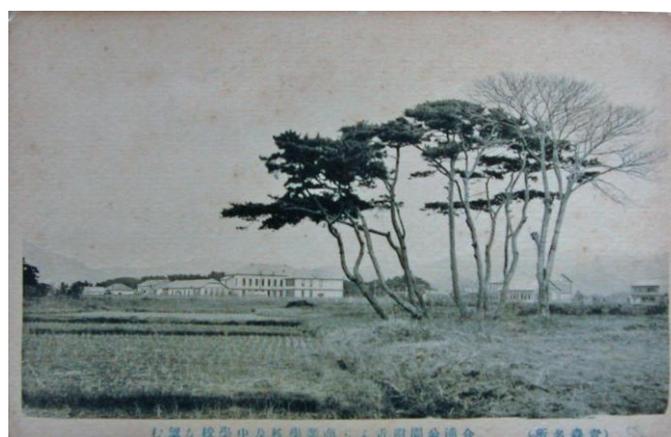
家が近所で、親交があった関野準一郎が根市良三との思い出をこのように語っています。「小学4、5年の頃からガリ版の同人誌を竹童と号した根市や私が同人で、こまちゃくれたコマ絵、文字遊びをしたことが思い出されてくる。(※竹童とは少年倶楽部の連載小説、吉川英治『神州天馬俠』の怪童の名からとった)」、「中学生の頃から切手の蒐集をしたり、版画の頒布会に加入したり、文学書や画集など、彼の家に行けば私もその余香を愉しませて貰うことができた。」(『版画を築いた人々 自伝的日本近代版画史』美術出版社 1976年)

絵や文学に触れたこと、準一郎との関係性によって良三が元々持っていた才能が目覚めていったのかもしれませんがね。

その後、良三は青森県立青森中学校(現青森高校)に入学し、昭和2年(1927)に「殺人幻想」を新興版画展へ出品し、入選します。

昭和5年3年生の時には、同級の佐藤米次郎、柿崎卓治と県内初となる版画誌『緑樹夢』を発行しています。

また、昭和6年に第1回日本版画協会展にて「秋の部屋」が入選となりました。



合浦にあった青森中学校と青森商業学校  
(歴史資料室蔵)

良三は昭和8年19歳の時に上京し、文化学園美術部に在籍します。  
いしいはくてい  
石井柏亭に師事して油絵を学びました。

作品の1つである「絵の上の静物」は昭和9年のパリ現代日本版画展、さらに昭和11年2月のスイスジュネーブから始まり、欧米9都市・アメリカ各地を巡回した日本現代版画展に出品され、彼の作品は多くの人の目に触れることとなりました。

しかし、昭和9年頃から日本版画協会展への出品を止め、文学に興味を持ち始めるのです…。

今回はここまでとさせていただきます。  
次回、私が担当するトリビア配信回にまた続きをお話しさせていただきます。  
お読みいただきありがとうございました！

※今回の内容は、『根市良三画集』(津軽書房 1969年)、『緑の樹の下の夢—青森県創作版画家たちの青春展』(青森県立郷土館 2001年)、『新青森市史 通史編第四巻 現代』(青森市 2014年)などを参考にしています。